

藤並の森

vol.93
2021.06

キヨノサチコさん(左) 美佳さん(右)

リレー随筆

母とノンタンとわたし

清野 美佳

4、5歳のとき、わたしはノンタンを絵本のキャラクターとして楽しんでいました。わたしが生まれたときからノンタンはいましたから。ノンタンみたいにガムをたくさんほおばって食べてみたいとか、泡いっぱいの中に隠れてみたいとか、「一緒にブランコで遊んで『だめ、だめ』っていつてみたいなど、ノンタンは楽しさのモデルでした。

でも大人になると、絵本のキャラクターではなく、もっと家族みたいに感じ始めました。守つて助け合う、いつもそばにいるお兄ちゃんノンタンになっていました。いても気にならないしまり気にしない、でもいるのがふつうな存在。長年いろんなことを一緒に乗り越え、過ごしてきたせいか、その後はもつと頼れる親友のようなお兄ちゃんノンタンに、関係が成長しました。だれにも話せないこと、話したくないことも話せる。笑顔で励ましてもくれます。が、落ちこんでいるときは「ぼくがいるから大丈夫」というような感じで、見守ってくれるお兄ちゃん。

そんなノンタンを、母は、意志もあり、ものごとを動かしたり変えるエネルギーがあるのよと言つていました。絵本を描いていたとき、たまに思いどおりにいかないことがあつたのかもしれません。親のいうことを聞かない子どもみたいに! 母の頑固な性格を、わたし以外にノンタンももつてゐみたいです。生まれつき体が弱く体力のない母が絵本を描き続けられたのも、ノンタンのエネルギーがあつたからだと思います。

でも最近になつて、やつぱりノンタンはノンタンだと気づきました。母と共に通点がたくさんあるけどノンタンはノンタン。別だつたんです。わたしも母から受け継いだものはあるけどわたしはわたし。好みも生き方も考え方も、それぞれユニークなところがある。でも愛でつながつてゐる家族というのは変わりません。ノンタンは永遠にわたしと一緒にいてくれる家族。これからも支えあっていきたいなと思っています。そしてノンタンがたくさんの子どもたちと、いつも元気に遊べるように願っています。

(キヨノサチコ氏長女)

シンデレラ展

～語り継がれる幸せの魔法～

REPORT



「CINDERELLA」作者不明 イギリス 1890年代



初日の川田氏による展示解説の様子

皆様から大変好評をいたしました「シンデレラ展」語り継がれる幸せの魔法～。展示室入り口のお城の形をしたアーチをくぐり抜けると、ガラスの靴・金の靴の展示に始まり、古今東西の色鮮やかな絵本の数々がずらりと展示されます。さらにデジタルアートのドレス、絵本から復元したドレス、昔のシンデレラの映像などが会場を盛り上げ、華やかな世界が繰り広げられています。

この企画展には、老若男女問

わざ多くのお客様がおいで下さいます。皆様からは、美しい展示品の数々に対する感動、世界各国に多くのシンデレラの物語が存在していることへの驚き、各作家の絵本を見比べてわかるシンデレラの描かれ方の違いの面白さなど、さまざまな感想をいただきました。展示を見ながらでき、完成したら缶バッヂがもらえる「幸せの言葉集め」イベントも大変好評です。

また、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示に多大なご協力をいただいたシンデレラコレクターの川田雅直氏の講演会を中心とする代わりに、その内容を「シンデレラが幸せをつかんだ7つの習慣」としてパネルで紹介。シンデレラの振る舞いにとても勇気づけられた、という感想もいただきました。

木洩れ日コンサートでは、デュ

オナトゥールの高村美智代氏、野村朝子氏の演奏で、135年前の「メヌエット シンデレラ」をはじめとした音楽を楽しみました。

また、モールでティアラを作れる「キラキラのティアラを作ろ

う☆」イベントにも多くのお客様がご参加くださいました。自分で作ったティアラを身に着けて撮影コーナーで写真を撮る方もおられ、それぞれに楽しめるイベントとなりました。朗読の会やおはなしキャラバンも好評でした。

シンデレラ展は6月13日(日)までです。文学館で、ぜひお気に入りの一冊を見つけてみてください。

(学芸課／川島禎子)



木洩れ日コンサートの様子

常設展 虫がね

シリーズで変わる
常設展をご紹介！

記念年やテーマに沿って展示が変わる当館名物「変わる常設展」。

6月末には【反骨の大衆文学】コーナーを浜本浩から馬場孤蝶に展示替えします。

馬場孤蝶

馬場孤蝶（本名・勝弥）は明治2（1869）年、土佐藩士・馬場来八の四男として高知市金子橋（現・升形）で誕生しました。

10歳の頃に両親と共に上京、明治学院卒業後は高知をはじめ各地の中学校で教鞭をとる傍ら同窓の友、島崎藤村らと「文学界」の同人としてロマンチックな詩や小説を発表し、随筆、評論、翻訳の分野でも活躍。明治39（1906）年から慶應義塾大学の教授を勤め、海外の優れた文學作品を紹介し、日本で初めてトルストイ著『戦争と平和』を全訳しました。

かつて孤蝶は詩作について「先づ深く感ぜよ。先づ深く観よ。先づ精緻に物を究はめよ。先づ細心に筆を著けよ。雄大といひ、豪宕といふも、若し細心精緻の根柢なくむば徒に空疎の文字、粗放の語に終わらむのみ。」（※『春駒』）と記しました。その深い見識は創作よりも評論・隨筆の分野で特に發揮され、教え子であつた小島政二郎、佐藤春夫、井汲清二、森下雨村らに外国文学の面白さや幅広い物事の見方を教えました。展示を通して、孤蝶の魅力や土佐人らしい反骨精神に触れていただければ幸いです。



（学芸課／福富陽子）

孤蝶の作品は隨筆『明治文壇回顧』など今読んでも面白いものが多く、物事の本質を捉え、鋭く切り込みつつも軽やかに流れる文章は洒脱で、孤蝶本人の魅力

と相まって現代でも静かな人気を呼んでいます。

令和元（2019）年に生誕150年を迎える生涯と文学の軌跡を紹介する企画展「馬場孤蝶 生誕150年記念展～馬場孤蝶とその時代～」を開催した際には県内外から様々な世代のファンの方にお越しいただきました。

今回の展示では、書簡や色紙などの資料を通して、孤蝶の趣味や交友関係、樋口一葉との関りや高知との関係など多角的な視点でご紹介します。

宮尾文学の世界室では、4月1日より、吉川英治文学賞受賞作『序の舞』を中心に、宮尾文学のひとつのかつての到達点ともいえる「芸道もの」作品を紹介しています。

小説『序の舞』は女性初の文化勲

章を受章した日本画家・上村松園をモデルに執筆されました。明治～昭和の京都を舞台に、画家として、また女性として傷つき、悩みながらも、自身の道を確立し、美人画家として大成する、女性画家・津也（島村松翠）の生涯が余すところなく描かれています。また、津也を陰に日々に助ける母・勢以の強く、優しい姿が印象的で、忘れ得ぬ存在として輝きを放っています。

「序の舞」は1981年5月から1982年8月まで1年3ヶ月に渡り、朝日新聞夕刊に連載されたのち、100枚近く加筆した上で上梓され、第17回吉川英治文学賞を受賞。上村松園の年譜に沿しながらも、あくまで独自の小説世界を作り上げ、一人の女性の生き方を描いた作品として高い評価を得ました。

宮尾さんの「芸道もの」作品の主人公には、各々モデルがあり、多くは明治、大正生まれの女性たちです。作品の中の彼女たちは、家や身分、伝統など自身の立場や運命に逆らう

宮尾文学の世界室



「序の舞」草稿など、展示の様子

のではなく、与えられた環境の中で、自分の信じる道を精一杯生きています。そうした主人公の等身大の姿が共感を呼び、昭和・平成そして令和と、時代を超えて読み継がれる魅力となっています。

今回の展示では、1200枚近くにのぼる「序の舞」草稿や創作ノートなど、貴重な資料の数々を展示し、作品世界を紹介しています。また、愛用の着物の他、宮尾さん着用の着物の生地を使用した「きものがたり」特別愛蔵本や豆本など、愛らしい品々も展示しています。ぜひご覧ください。

（学芸課／岡本美和）

企画コーナーでは、前年の「ス

ポーツと文学」作家がとらえた躍動の一瞬。物語る文学」から視点を変え、「近世期までの文

学作品に描かれたスポーツの場面」をテーマに展示しています。

スポーツはもともと「気晴らし」による遊戯」という意味があり、やがて競争的要素が強く、技術的にも高度な運動競技を指すようになつたと言われています。本展では、人々が精励した武道や、娯楽としてのスポーツを紹介しています。各スポーツを

「競」では相撲・競馬などを「遊」「鍛」「競」に分類し、「遊」で遊鞠「鍛」では弓馬や鷹狩り、ローズアップしています。

最初に紹介しているのは相撲です。「日本書紀」には相撲の起源とされる野見宿禰と当麻蹶速の勝負について記述が見られます。鷹狩りや蹴鞠も貴族や武士に好みます。萬葉集や伊勢物語には、鷹狩りにちなんだ歌やエピソードが描かれました。土佐藩主の

逸話等が記録された『一豊朝臣御高名記』には、山内豊常が鷹狩りに親しんだとの記録があり、土佐でも様々なスポーツが親しまれていたことがうかがえます。

弓や馬術は、鎌倉時代に武士が鍛錬のため行ない、この頃「弓馬の道」という言葉も生まれました。『平家物語』や『曾我物語』には、馬を馴し、弓を操る戦の様子が勇ましく描かれています。

また、土佐の流鏑馬の紹介として四万十町高岡神社より流鏑馬の装束を、勝負舞(相撲などの勝負事を行う際に舞つた)の紹介として「蘭陵王」の装束等を繁藤雅陽会より借用・展示しています。そして、中でも注目いただきたいのが「鳥獸戯画」甲・乙(複製/個人蔵)です。17mを超える長大な資料のため、スポーツ別に期間を分けて公開します。蛙や兎が楽しげに水練や相撲・弓射に興じる様子をお楽しみください。

人々の修練として、また、戦や修練の合間に人々が心を紛らわせた「遊び」や嗜みとしてのスポーツに着目した本展を、古典文学とともに、味わっていただければと思います。期間中は、随時ページを替えて紹介していくります。

(学芸課/野々村昭美)



展示の様子

*資料保護のため照度を落として展示しています。

常設展企画コーナー

スポーツと文学

～あそぶ　きたふ　きほふ。物語る文学～

資料受贈報告

寄贈資料から

「どんぐり」

寺田寅彦／中谷宇吉郎著

山本善行撰 灯光舎刊

令和3(2021)年3月 80頁
灯光舎寄贈



(令和3年2月～4月)敬称略 受贈報告

(令和3年2月～4月)敬称略
受贈報告

▼高橋正・「高知の近代文学さんばー」照射
と影 高橋正著 高知新聞総合印刷
刊

▼細谷曉夫著 翁理舎刊他
刊

▼四宮義正・「徳島科学史雑誌No.39抜刷
寺田寅彦と後進者の恩賜賞、学士院賞
妹沢克惟と日高孝次」 四宮義正著

▼中西敏子・「歌集呼子」 中西敏子著

▼ながらみ書房刊

▼野村永子・「歌集早春の譜第10集
クル編刊」 新潮社刊

▼「イック出版社」「夏目漱石書簡集(韓國版)」 夏目漱石著 キム・ジエウォン訳
イック出版社刊

▼NHK出版刊 「NHK 100分de
名著2021年3月号災害を考える
日本放送協会 NHK出版編 NHK出
版刊」

▼KADOKAWA 「DXとは何か」 意識
改革からニューノーマルへ 坂村健著
KADOKAWA刊

▼三好達治賞実行委員会事務局 「アンソ
ロジー三好達治賞実行委員会事務局
会事務局編刊」

山本さんはこのシリーズを「読んだあとに誰かに伝えたくなるような隨筆、代表作とはまた違った一面が見られる小説、何度も読み返したくなる美しい文章。そのような作品をシンプルな装帧で本読み人に届けたい」そういう気持ちで去年から準備してきた」といいます。寅彦と宇吉郎の著作は、これまで何度も選集が編まれ、読み継がれています。選び抜かれた内容とふと手にしたくなる道の道“という言葉も生まれました。『平家物語』や『曾我物語』には、馬を馴し、弓を操る戦の様子が勇ましく描かれています。

また、土佐の流鏑馬の紹介として四万十町高岡神社より流鏑馬の装束を、勝負舞(相撲などの勝負事を行う際に舞つた)の紹介として「蘭陵王」の装束等を繁藤雅陽会より借用・展示しています。そして、中でも注目いただきたいのが「鳥獸戯画」甲・乙(複製/個人蔵)です。17mを超える長い資料のため、スポーツ別に期間を分けて公開します。蛙や兎が楽しげに水練や相撲・弓射に興じる様子をお楽しみください。

寺田寅彦と中谷宇吉郎はともに物理学者で隨筆家。科学者としての優れた研究のみならず、数々の名隨筆を残した師弟として知られています。

今回ご紹介する「どんぐり」は、そうしたある隨筆の中から、寺田寅彦「どんぐり」「ゴーヒー哲學序説」と中谷宇吉郎「団栗」のことなど」の3編を収録。本書の最初に置かれた寅彦の「どんぐり」は、若くして亡くなった妻との想い出を綴つたもので、結びの宇吉郎「団栗」のことなど」で、その背景が丁寧に記されています。対して、心に沁みる2編の間に挿入された「ゴーヒー哲學序説」は、撰者の山本善行さんが本書の「ゴーヒー・ブレイク」と位置付ける1編。どことなくユーモアが漂い、独特の味わいがあります。わずか3編ながら、あわせ読むことで書き手の筆の確かさはもとより、幅の広さや奥行きといったものが窺える構成となつており、編集の妙を感じます。

本書「どんぐり」は「灯光舎本のともしび」シリーズの第1弾として刊行されました。

（学芸課/野々村昭美）

さまざまな視点で高知の文学者にゆかりのある場所を紹介する「土佐文学さんぽ」。今号より郷土史家の谷是さんに執筆いただきます。歴史と文学が交わる文学さんぽをお楽しみください。

大町桂月の父・通のこと——文学者の周辺——

谷 是

桂月の父・通は、新馬廻百五十石の歴とした武士であった。それがご維新のため俸禄を失ない、一時金はもったが、高知城下・北門筋の屋敷もなくし、明治九年江ノ口で銭湯を始めたが失敗。同年秦泉寺で農耕をしたが、うまくいかず、同十二年、山田町で蟻^{アリ}製造をしたがまた失敗。「士族の商法」である。

五歳の時、桂月は父と小船に乗つて居た。父は橋柱に小船をつないで「一寸待つて居れ」と言つて上つて行つたが、なかなか帰らない。腹はへり、心細くなつて泣き出した。橋畔に住む老人が菓子を買って与えてくれた。ようやく父は帰つて来たが、菓子代を払い、「武士の子たるもののが、他人に菓子をもらつて喜ぶとは何事か」とさんざん叱責されたという。その後「待つて居れ」という父に、また置いていかれると思い、あわてて後を追つて上がろうとする、滑つて川に落ちた。「子供が流された」という声に、父は気がついで、救いだしたが、溺死寸前だった。

明治十三年三月、母系は、この人と居ても子供は育てれないと思ったのか、十一歳の桂月を連れて、陸軍砲兵少佐・母方の叔父多賀宗義を頼つて上京し



右・明治十三年十一月三日没
左・享年四十八歳

裏大町正武建之と刻まれた墓
高知市三の丸西側の竹林、國沢家墓地内北角に大町通の墓が大町家唯一基のみで建っている。

桂月文学の根幹には、父・通の血筋と宗義の感化が大きい。それが決定的だと言つても良い。国を愛する国家主義と、民を憶う人間味が溢れている。文語体のせいで、旧態文学だと今日評せられるが、貧窮の中につつて、学問に「文学」に精進し続けた勇猛心と正直な生き方に、深い感銘を覚えるのは、私だけではあるまい。**瘦せ我慢**の文士。土佐特有の反骨性。そういう側面も感じるが、そんな人格を生み出した、不幸な「大町通」という人間にも、時代に翻弄された庶民の像を見る思いがする。

練習に練習を重ねて本番に臨む児童生徒の皆さんたち。参加者一人ひとりの、自分の表現を追求する中から紡ぎ出される表情豊かな朗読と、コンクールに臨む際の真剣な姿に、主催する側の私たちも毎回たくさんの感動や刺激をいたいでいます。

また、当コンクールの特色として、朗読作品の選定は文学作品であれば自由(詩は除く)、という点が挙げられます。よって、作品選びにも出場者の思いや物語が感じられ、出場者それぞれの思いの詰まつた作品と出会える楽しみもあります。

感性豊かな児童生徒の皆さんのが、瑞々しい朗読に満ちたコンクールが

た。以後宗義に育てられることになる。通は妻にも子にも去られ、八ヵ月後に病死した。死にのぞんで長姉の夫を呼び、「黒鯛の釣り方」を遺言したというから、いかにも武士の末裔らしい終焉ではないか。

桂月文学の根幹には、父・通の血筋と宗義の感化が大きい。それが決定的だと言つても良い。国を愛する国家主義と、民を憶う人間味が溢れている。文語体のせいで、旧態文学だと今日評せられるが、貧窮の中につつて、学問に「文学」に精進し続けた勇猛心と正直な生き方に、深い感銘を覚えるのは、私だけではあるまい。**瘦せ我慢**の文士。土佐特有の反骨性。そういう側面も感じるが、そんな人格を生み出した、不幸な「大町通」という人間にも、時代に翻弄された庶民の像を見る思いがする。

今回で24回目を迎える児童生徒文学作品朗読コンクールは、朗読を通して文学に親しむ子どもたちを育てたいという願いを込めて、高知県内の小学生を対象に平成10年度から始まりました。

小中学校が夏休み期間中の8月に西部・東部・高知の3地区でそれぞれ地区審査が行われ、その審査を通過した出場者が11月に開催される県審査に進みます。

練習に練習を重ねて本番に臨む児童生徒の皆さんたち。参加者一人ひとりの、自分の表現を追求する中から紡ぎ出される表情豊かな朗読と、コンクールに臨む際の真剣な姿に、主催する側の私たちも毎回たくさんの感動や刺激をいたいでいます。

始まります。前回は、新型コロナウイルスの影響によりやむなく中止となりましたが、今回は感染防止対策を講じながら開催する予定です。

なお、県審査の特別審査委員には、イラストレーターであり絵本作家である柴田ケイコさんをお迎えし、柴田さんによる記念講演会も開催の予定です。

ので、ぜひともご注目ください。

※地区審査及び県審査の詳しい日程やお知らせなどは当館ホームページに随時掲載をしていきます。

児童生徒文学作品朗読コンクールのご案内

第24回



第22回朗読コンクール県審査表彰式終了後の集合写真



館長エッセイ

ショップより

語り継がれる幸せの魔法」では、お子様から大人の方まで幅広い年齢層のお客様にお楽しみ頂いています。ショップはいつもと少し違う、童話の世界観が拡がる華やかな空間になっています。

ロココ、アンティーク調のグッズが並び、大人の方にも喜んで頂けるラインナップです。

中でもお勧めなのは、シンデレラ研究家・川田雅直氏の著書『世界のシンデレラ』です。古今東西のシンデレラの物語について深く掘り下げており、世界中の画家が描いた挿絵、オペラ、ミュージカル、映画のポスターなど様々な作品と共に、展示資料も多数掲載されています。

ロココ、アンティーク調のグッズが並び、大人の方にも喜んで頂けるラインナップです。

中でもお勧めなのは、シンデレラ研究家・川田雅直氏の著書『世界のシンデレラ』です。古今東西のシンデレラの物語について深く掘り下げており、世界中の画家が描いた挿絵、オペラ、ミュージカル、映画のポスターなど様々な作品と共に、展示資料も多数掲載されています。



進化する展示

ちょうど4年前、東京のある公立文学館で、従来の展示のカタチとはひと味ちがうものを見た。それは、さまざまな物語を、機械仕掛けの装置や人形の動きで表現したもので、最小限の説明文しかなかった。私はその仕掛けの精巧さと展示構成の斬新さを前に、しばし足を止めるともに、しばらくして、これは見る側の感性で、どのようにも理解が成り立つ展示なのだと気付いたことを思い出す。

当館では現在、「シンデレラ展」と「あそぶきたふきほふ。物語る文学」の企画展を開催中。自画自賛ではあるが、前者では、世界各地から集められた本のなかで、それぞれの時

も大変美しく、お部屋に飾っても素敵です。

ご観覧の際はミュージアムショップにもぜひお立ち寄り下さい。

(総務事業課／大原良子)

19世紀の復刻本シリーズも大変美しく、お部屋に飾っても素敵です。

ご観覧の際はミュージアムショップにもぜひお立ち寄り下さい。

(総務事業課／大原良子)

(岡崎順子)

講師と講義内容

第1回 令和3年6月26日
「馬場孤蝶とロシア文学」(仮)

講師 高橋 正先生(高知高専名誉教授)

第2回 令和3年7月24日
「ロシアの民話・絵本」(仮)

講師 安田 幸子先生(絵本研究家)

第3回 令和3年8月28日
「ドストエフスキー現代への箴言」

講師 亀山 郁夫先生(名古屋外国語大学長・世田谷文学館長)

第4回 令和3年10月23日
「幸徳秋水について」(仮)

講師 高橋 正先生(高知高専名誉教授)

第5回 令和3年11月27日
「幸徳秋水のジャーナリズム」(仮)

講師 天野 弘幹先生(高知新聞社学芸部長)

第6回 令和3年12月25日
「兆民と秋水」(仮)

講師 筒井 秀一先生(高知市立自由民権記念館長)

第7回 令和4年1月22日
「幸徳秋水墓前祭報告とバーチャルで旅する秋水ゆかりの地」(仮)

講師 田中 全先生(幸徳秋水を顕彰する会)

第8回 令和4年2月26日
「大逆事件と文学者たち」(仮)

講師 高橋 正先生(高知高専名誉教授)

マイスター講座

開催します

昨年度の講義の様子



を題材とした講義です。

後期の10月からは、生誕150年・没後110年を迎える高知県出身の幸徳秋水

に着目し、その生涯と文学作品について紹介します。秋水は

幼い頃から自由民権運動に感化さ

れ、ジャーナリストとして「万朝報」などで論

を展開。また、日本を憂い、「廿世紀之怪物帝

国主義」などを著しましたが、「大逆事件」首謀者として処刑されました。講座では、秋水

の生涯とジャーナリストとしての面をクローズアップさせるとともに、師・中江兆民や盟友たちとの交流についてお話ししてください!

なお、好評のため満席となりましたが、必ず事前に文学館にお問い合わせください。

後の状況によっては参加いただける回が出てくる場合もございます。受講希望の方は必ず事前に文学館にお問い合わせください。

(学芸課／野々村昭美)

高知県立文学館 カレンダー

好評開催中!

シンデレラ展

~語り継がれる幸せの魔法~

会期 令和3(2021)年4月10日(土)~6月13日(日)

会場 高知県立文学館 2階企画展示室

開館時間 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料 一般500円(常設展含む)、長寿手帳等お持ちの方・

高校生以下は無料

展覧会の紹介をしています! 詳しくは3ページ目をご覧ください。

臨時休館のお知らせ

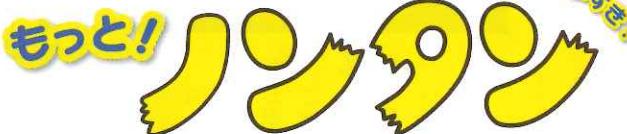
6月21日(月)~6月23日(水)メンテナンスのため休館

次回開催!

刊行45周年記念

ノンタン絵本の世界展

みんな大いにすき!



へのご案内

©キヨノサチコ/偕成社

関連企画

ノンタンがぶんがくかんへあそびにくるよ。

♥ ノンタンといっしょにしゃしんをとろう!

日 時: 7月3日(土) 9月5日(日)

(6月15日(火)9時~受付開始 ※9/5分は6月23日(月)より)

両日とも ①10:00 ~ ②14:00 ~

場 所: 文学館 1階ホール ※ハグや握手はできません。

定 員: 各回20組 電話又は文学館受付にて事前申込

参加費: 当日観覧券

♥ ノンタンおえかきTシャツをつくろう!

日 時: 8月8日(日・山の日) 8月9日(月・振替休日)

(両日とも6月15日(火)9時~受付開始)

両日とも①9:00 ~ ②11:00 ~ ③14:00 ~

場 所: 文学館 1階ホール

定 員: 各回20名

電話又は文学館受付にて事前申込

参加費: 当日観覧券と材料費(500円くらい)

♥ 展示解説 7月3日(土)、7月17日(土)、8月21日(土)、9月4日(土)

各日とも13:30~(30分程度)

つくってあそぼう! ノンタンクッキー・ボシェット

日 時: 7月25日(日) 7月26日(月)

8月18日(水)

①10:00 ~ 12:00 ②14:00 ~ 16:00

場 所: 文学館 1階ホール

定 員: 申込不要

直接会場までお越しください。

※席が埋まっている場合、お待ちいただく

こともありますので、ご了承ください。

参加費: 当日観覧券

ファイナルイベント

夏の思い出をもってかえろう

日 時: 9月5日(日) ①9:00 ~ ②13:00 ~

定 員: 各回先着30名

参加費: 当日観覧券

内 容: 文学館で過ごした楽しい夏休みの思い出に、
すてきなプレゼントをご用意しています。団体向けプログラム
「ノンタンとあそぼう!」

対 象: 幼稚園、保育園、児童クラブなどの団体

申込方法: 団体での事前申込 詳細はお問合せください。

(6月15日(火)より受付開始)



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示および関連イベントは中止・内容を変更する場合があります。

みなさまのご協力をお願いいたします

- 体調不良の時には来館をご遠慮ください。
- 入口やトイレに消毒用アルコールを設置しておりますのでご利用ください。
- 咳エチケットや、マスクの着用、人が多い場所では会話を控える等のご協力をお願いします。

- 観覧の際は、ほかのお客様と十分な距離をとってご観覧ください。
- 展覧会混雑時には入館をお待ちいただく場合があります。
- 職員はマスクをして対応いたします。

お客様に安全に観覧いただくため、ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力下さい。

利用案内

開館時間 午前9時~午後5時(入館は、午後4時半まで)

休館日 年末年始(12月27日~1月1日)を除き、無休。

※その他メンテナンス等で臨時休館することもあります。

観覧料 一般370円 企画展はそれぞれ異なります。

20名以上の団体は2割引。高校生以下無料。

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、

戦傷病手帳又は被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者1名、
高知県・高知市長寿手帳をお持ちの方は無料です。

(窓口で手帳等のご提示をお願いする場合があります)

駐車場 なし。ただし近辺に有料駐車場があります。

附帯設備 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、
茶室「慶雲庵」

貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

交通のご案内



●高知龍馬空港より空港連絡バス(県庁前行)

「高知城前」下車、北へ徒歩5分または

「高知駅」(北へ徒歩20分)

●JR高知駅下車、徒歩20分(または連絡バス・路面電車を利用)

●路面電車「高知城前」下車、北へ徒歩5分

●バス停「高知城前」下車、北へ徒歩5分

高知県立
文学館
〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目1-20
電話 088-822-0231
FAX 088-871-7857

高知県立文学館 検索

